＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

事業所番号	4673200061
法人名	医療法人　誠心会
事業所名	グループホーム　あったかハウス郡山
訪問調査日	平成20年4月5日
評価確定日	平成20年4月30日
評価機関名	特定非営利活動法人　シルバーサービスネットワーク鹿児島

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］
「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4673200061
法人名	医療法人　誠心会
事業所名	グループホーム　あったかハウス郡山
所在地	鹿児島市西俣町２１０番地 （電　話）099-245-6311

評価機関名	特定非営利活動法人　シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町３４番１号　　南光ビル３０３号
訪問調査日	平成20年4月5日

【情報提供票より】（平成20年2月29日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成14年9月17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	13人	常勤　12人、 非常勤　1人、 常勤換算　人	

（2）建物概要

建物構造	重量鉄骨　造り
	1 階建ての　1 階　～

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	16,500　円	その他の経費（月額）	9,000　円
敷　金	有（　円）　無（○）		
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（○）（　30,000円） 無	有りの場合 償却の有無	有／無（○）
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　800　円		

（4）利用者の概要（　2月29日現在）

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1		名	要介護2	4	名
要介護3	8	名	要介護4	5	名
要介護5	1	名	要支援2		名
年齢	平均　87 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院・ゆのもと記念病院歯科・まえはらリハビリクリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、母体病院や関連施設等の協力により、医療面のバックアップ体制が充実している。運営者は職員の意見や提案を積極的に聞く機会をもち、一体となって取り組んでいる。管理者は、県や地域の研修会等を通じて他地域の同業者と連携体制を築いており、相互研修会や事例検討会を開催するなど、同業者と協働して質の向上に取り組んでいる。また、入居者が住民と接する機会が持てるような行事を企画して参加や協力を行っており、ホームが地域住民にとって気軽に立ち寄れる「地域の拠点」となり、”あったか”な輪をつくれるよう取り組んでいる。

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

改善課題についての取り組み状況は、次のとおりである。①入居者の希望に応じて、自由に入浴していただくよう改善②定期健康診断や通常の受診時も、血液検査結果を保存して主治医のコメントをもらい、検査結果により異常値や服薬の変更がある時は、主治医の指示を介護計画に取り入れるよう改善③市との関わりについては、ホームの実情や取り組みを伝え協力関係を築いている。また、地域包括支援センターも交えて運営推進委員会で情報交換を行っており、改善が図られている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

前回の外部評価及び自己評価を活用し、改善計画を立てて実践につなげている。今回の自己評価も、自分達にない視点からの気付きを得られる機会と捉え、より良いケアを提供していくために職員全員で取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4、5、6）

運営推進会議には、ご家族・地域の公民館長・老人会長・市担当者などが参加しており、ホームのサービス内容や活動報告、地域への協力依頼、ホームに対する要望や助言などについて必要な事項を話し合い、サービスの質向上に活かしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7、8）

ご家族の面会時には、入居者の健康状態や生活状況等について写真やビデオ等を使ってお話ししており、面会に来れないご家族には、手紙や電話で報告している。ご家族等からの意見や要望は、家族会や面談の際にお聞きしているほか、意見箱も設置している。また、年に2回、アンケートも実施している。ご家族から何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意すると共に、ミーティング時には、ご家族から出された意見を話し合い運営に反映させている。第三者委員についても、ご家族に説明している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地域との交流・ふれあいを大切にしており、町内会にも加入している。地域行事の運動会・文化祭・老人クラブのお達者クラブに参加しており、ボランティアも受け入れている。地域に働きかけ、ホームの行事に住民や小中学生の参加を得ており、地域との連携が図られている。

2.　評価結果（詳細）

（ 　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念実現の為に、入居者のペースでの生活を支援していくことを心がけている。また、地域密着型サービスの役割を職員全員で確認しており、地域生活の継続支援や地域との関係づくりに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関や職員詰め所に明示しており、定期的な勉強会や申し送り時に唱和している。日々のサービス提供場面においても、理念の実践に向け職員全員で取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流・ふれあいを大切にしており、町内会にも加入している。地域行事の運動会・文化祭・老人クラブのお達者クラブに参加しており、ボランティアも受け入れている。地域に働きかけ、ホームの行事に住民や小中学生の参加を得ており、地域との連携が図られている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価及び自己評価を活用し、改善計画を立てて実践につなげている。今回の自己評価も、自分達にない視点からの気付きを得られる機会と捉え、より良いケアを提供していくために職員全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族・地域の公民館長・老人会長・市担当者などが参加しており、ホームのサービス内容や活動報告、地域への協力依頼、ホームに対する要望や助言などについて必要な事項を話し合い、サービスの質向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議時の他、介護保険証の更新申請時にホームの運営や実情、取り組み等を話したり、相談をするなどしており、連携を図っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時には、入居者の健康状態や生活状況等について写真やビデオ等を使ってお話しており、面会に来れないご家族には、手紙や電話で報告している。また、金銭管理については、ご家族に金銭出納帳を明示して確認のサインをいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等からの意見や要望は、家族会や面談の際にお聞きしているほか、意見箱も設置している。また、年に2回、アンケートも実施している。ご家族から何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意すると共に、ミーティング時には、ご家族から出された意見を話し合い運営に反映させている。第三者委員についても、ご家族に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動については、入居者に戸惑いがないように一人ひとりに合わせた対応を考慮しており、コミュニケーションを図り、雰囲気づくりや言葉遣いにも配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の合同勉強会や外部研修に、全職員が交代で参加している。また、外部研修の内容については、職員が全員で共有できるように、受講者による研修内容の報告会を実施している。段階に応じた研修計画は、今のところ作成されていない。		各自の希望により、研修に参加する機会は確保されているが、今後は、職員を段階に応じて育成するための研修計画を作成して、計画的に研修参加の機会を確保していくことが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、県や地域での研修会等を通じて、他地域の同業者と連携体制を築いており、相互研修会や事例検討会等を開催するなど、同業者と協働して質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前には、入居者やご家族に何回か見学してもらったり、職員が入居者宅へ伺ったりしている。また、ご家族や本人のニーズを把握し、ホームとしての対応方法を職員間で検討するなどして、除々に本人が馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の大先輩として、いろいろな場面で教えていただく姿勢を常に忘れないよう心がけている。入居者と職員が協働しながら、和やかな生活ができるように支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族を交えて、本人にとってどのような暮らしが一番良いのか、常に意向を聞き話し合っている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族には、日頃の関わりの中で思いや暮らしへの意向を聞き、アセスメントやモニタリングでは職員全員で意見交換を行い、本人がより良く暮らし続けるための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画のサービス内容については、職員が毎日実施状況を確認している。毎月のミーティング時に、計画の見直しや変更の必要性を職員で話し合い、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況や要望に応じて通院介助するなど、柔軟に支援している。		
ある					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医に受診している。ご家族の同伴受診ができないときは、職員が通院介助を行い、ご家族に診察の結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期対応指針を定め家族会時に説明し、ご家族・医師・看護師と話し合いをしている。また、状態の変化があるごとに、ご家族の気持ちの変化や本人の思いに配慮して随時意向を確認するなど、方針を共有するよう努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （１）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳やプライバシーを重んじ、一人ひとりに合わせた優しさのある声かけや気配りをしており、個人情報の取り扱いにも注意している。また、ミーティング時にも、繰り返し全員で確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にするような環境づくりに心がけている。職員は本人の意志を聞いて、希望やペースにそった個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
22	54	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方が持ち寄ってくださる野菜や、入居者が菜園で収穫した野菜を職員と一緒に調理して、同じ食事を和やかに談笑しながら楽しんでいる。		
23	57	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は職員が一方的に決めず、入居者のその日の希望を確認して入っていただいている。入浴を拒む方に対しては、言葉かけや対応を工夫したり、チームプレイやご家族の協力を得て、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。		
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人が得意としていた事や、趣味を継続できるような支援を行っている。共に生活する中で、食事の準備や片付け、ゴミ出しや洗濯物たたみなど、一人ひとりに合った役割や楽しみ事を見出せるような場面づくりや働きかけの支援をしている。		
25	61	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者一人ひとりの気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい心身の活性化につなげるよう、日常的に散歩や買い物、ドライブ等に出かけるよう支援している。		
（４）安心と安全を支える支援					
26	66	〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけておらず、自由に出入りができる。入居者が外出されそうな様子の場合は、さりげない声かけや一緒について行くなどして、安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。		
27	71	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を行っている。運営推進会議や自治会行事の際に、地域の方にホームでの火災発生時の協力を依頼している。地域での災害時は、ホーム側が協力できる体制についての働きかけもしている。		災害時のマニュアルはあるが、事業者間で災害対策に関する話し合いや具体的な支援体制の整備を行い、さらなる内容の充実が期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事献立を記録し、個別の食事摂取量や水分摂取量も記録している。また、管理栄養士に相談するなどして、栄養バランスや献立内容について定期的にアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの時間を過ごす共用空間が入居者にとって居心地の良い場所となるように、馴染みのものや季節感のあるものを取り入れて工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の生活スタイルに合わせて、好きな絵や写真、位牌等を部屋に持ち込むなど、入居者が居心地良く過ごせる居室づくりに配慮している。		